

サイエンス ワンダーランド

in 理学部

山口大学理学部 Vol. 29, 2020

特集

山口大学理学部のコロナ対応

新型コロナウイルスにより全国の大学が影響を受けました。本号では本学部の状況を紹介します。

春からの状況

■山口大学の方針

七都府県に緊急事態が宣言された4月7日に、山口大学本部は4月13日から遠隔授業を開始し、当面は祝日も授業を実施するという方針を決めました。全国的には、遠隔授業の準備のために授業開始を遅らせた大学が多い中において、きわめて早いスタートでした。それには2つの理由がありました。

ひとつは学生の保護です。山口大学には全国から多くの学生が入学しています。授業開始を遅らせると、帰省や旅行で多くの学生が全国を移動することが懸念されました。4月の時点では、山口県内の感染者数は少ない状況でしたので、学生の皆さんに県内に居てもらえるように、早急に授業を開始することになりました。

もうひとつはタイムラグです。感染拡大が山口県にまで及ぶには時間がかかると予想されました。感染者数が増えれば入構禁止など厳しい制限を行わざるを得ません。できるうちに授業を進めておくべき、と判断されました。

■理学部の授業は

ネットによる遠隔授業ではありませんが、例年同様に4月上旬から講義が開始されました。学生の皆さんも教員も遠隔授業に慣れておらず、多少の戸惑いはあったものの、深刻なトラブルもなくスタートを切れました。ただし理学部にとって重要である実験系科目は、開始を遅らせざるを得ませんでした。

5月22日から山口大学では十分な感染防止対策が取られた実験系科目について対面授業の再開が許可されました。例えば実習では事前説明をオンラインで行うことで時間を短縮し、また一度に実験室に入る人数を制限するなど慎重な配慮がなされました。

その結果、前期は講義・実験系科目ともに、ほぼ計画通りの内容を実施することができました。全国の大学のなかでも最も教育へのダメージが小さかったケースと言えるでしょう。これもひとえに学生および保護者の皆様のご協力のおかげです。感謝申し上げます。



教室入口に消毒液が設置されました。

後期に向けた理学部の対応

理学部長 野崎浩二

山口大学本部は後期の授業について、「感染防止対策を講じて、対面授業を主として実施する。必要に応じて遠隔授業も実施する。」という方針を発表しました。これを受け、理学部でも可能な授業は対面方式で実施する方針をうち出しました。前期の学生授業アンケートの結果、授業内容の理解度等に関係する項目が、昨年度よりも軒並み悪化しました。可能なものは対面方式で実施しないと到達目標を達成できない授業もできます。

対面授業実施のもっとも大きい課題が講義室の収容人数です。密集を避け、学生同士の距離を確保するため、席数の50%程度で実施しなければなりません。当初割り当てていた講義室の席数と履修者数をすべてチェックし、講義室の再配置作業をしました。

この作業は理学部の事務系職員が精力的に取り組む、短期間でどうにか終わることができました。席数の50%を超える授業は、1つの講義室で実施する授業を別の講義室にオンライン配信する方式で実施しています。実験系の授業科目については、教員がアイデアを出し合い感染防止のためのさまざまな工夫をしまし

た。必要な対策を後期開始までにどうにか終え、10月1日には後期の授業がスタートしました。

現在、理学部は山口大学で対面方式の授業の割合が最も高い学部になっています。理学部は、受講者が100名を超えるような授業がもともと少ないことも幸いしました。また、事務系職員の献身的努力と教員たちが工夫を出し合うことで達成できました。

10月1日からは、理学部の中では学生の笑顔がたくさん見られました。これが本来の大学の姿だと強く感じられました。幸い山口大学は後期になって、感染者は出ておりません。このままの状況を維持できるように、今後も身を引き締めて感染防止対策に取り組むたいと思います。



学生実習室の透明ついで

各学科・コースの対応

■数理科学科

数理科学科の学習相談室（茗茶房）では、山大学生であれば誰でも数理科学科の4年生や大学院生の相談員に数学の質問をすることが出来ます。

本年度の学習相談室では、相談員および利用学生の手指消毒、フェイスガード・マスク着用や、相談室の利用人数制限や消毒といった感染症対策を徹底しております。

皆さんの感染対策へのご理解とご協力の甲斐もあり、この後期も多くの学生が数学の質問に訪れています。



学習相談も少人数で正面には座りません

■物理・情報科学科（物理学コース）の大学院生による新入生のサポート

大学院生と新1年生がオンラインで座談会を開催しコミュニケーションを取りました。その後、大学院生から1年生に日常的な話題をメールで配信し、それをきっかけに大学での学修や生活の質問等のやりとりをするなど、1年生の大学生活の

タートをサポートしました。後期開始直前にも交流会を開催し、大学院生が様々な企画を準備してくれました。

ルール説明

- ①出題者(我々)が問題を出す
- ②参加者(皆さん)は出題者に質問する
- ③出題者がその質問にYesかNoで答える
- ④質問から推理して正解を考える

大学院生がクイズ形式のイベント（シチュエーションパズル「ウミガメのスープ」）を準備し、新入生・教員と交流をはかりました。

■物理・情報科学科（情報科学コース）

以前より講義・演習のイーラーニング化をすすめていたことで、問題なく遠隔授業に移行できました。講義では、授業内容の適性に合わせて、オンライン双方向授業や、動画配信による授業を展開しました。学生からは「動画は適宜止められるのでメモが取りやすい」など好意的なコメントが多かったです。実習科目も、遠隔授業用に開放されていた計算機実習室のパソコン、および学生所有のパソコンを併用することで、遠隔にて実施できました。



オンライン双方向講義

■生物・化学科（生物学コース）

生物分野では、様々な実験器具や生物試料を用いた実験が卒業に不可欠な必修科目となっています。そのため十分なコロナ対策をとりながら、学生実験室での実習や配属後の各研究室の卒業研究を実施しています。写真は学生実験室で間隔を空け、換気やアルコール消毒を行いながら、顕微鏡観察や観察結果の解析を進めているところです。



データ解析の様子

■生物・化学科（化学コース）

化学コースの専門科目には、学生が自ら実験する科目の履修単位数が多いです。国内の多くの大学では実験系科目がオンラインになっていますが、前期の早い段階から学生さんには実験ができるような環境を整備しました。後期では対策の整った教室で対面式講義が行えるようになり、学生さんの貴重な時間を少しでも実りあるものにできるよう教員一同努めております。



■地球圏システム科学科の対応

地球科学分野では感染防止を図りつつ実習を行っています。バスは乗車前の健康チェックを徹底し、定員の半数しか乗車させず、バスの台数を増やして対応しています。また、安心して顕微鏡実習ができるように、プラスチックのついたても設置しました。

そのほか新入生のケアを目的として、遠隔通信によるランチ会も開催されました。



理学部応援企業一覧

たくさんの地元企業から応援されています！
セントラル硝子株式会社化学研究所、テルモ山口株式会社、株式会社宇部情報システム、株式会社ベルポリエステルプロダクツ、株式会社コア西日本 e-R&D センター、株式会社湯田自動車学校、有限会社デジタル・マイスター、株式会社ブラケアジェネティクス、日本精蠟株式会社徳山工場、鴻理会、林兼産業株式会社、長府工産株式会社、株式会社ドーワテクノス、王子ゴム化成株式会社、宇部興産株式会社、テクノ UMG (株) 宇部工場、チタン工業株式会社 順不同

(令和2年10月末現在)

「サイエンスワンダーランド in 理学部」は、保護者の皆様と理学部をつなぐ広報誌です。ご意見、ご要望などありましたら下記までお知らせください。

山口大学理学部学務係 〒753-8512 山口市吉田

1677-1 Tel: 083-933-5210

E-mail: hc135@yamaguchi-u.ac.jp